



Environmental Museum of Water

紫江'S 水環境館

汽水域の断面を 覗き込む



河川に生じる現象には、視覚的に捉えにくいものがたくさんあります。とくに水面下の現象や生物の営みは、潜ってみなければ間近に確認することはできません。紫江'S 水環境館には、護岸の一部から紫川下流の断面が覗き込める大きな「河川観察窓」があります。ここは現在の都市河川のありのままの姿を大勢が実感できる場所です。

階段を下りて地下に入ると入り口があります。多くの来館者は、まっ先に館内でもひときわ明るく目立つ観察窓へと駆け寄って行きます。観察窓に近づくと普段見られない水面下の様子を水中の生き物と同じ目線から観察できます。季節や時間帯によって顔を出す生き物の姿は変わりますが、スズキ、ボラ、モクズガニ、クロダイ、マハゼ、



上／紫川と水環境館（建物地下部分）
下／河川観察窓

ゴンズイ、アメフラシ、ウナギ、クサフグ等、紫川の汽水域に生息する多くの生き物に遭遇します。この施設は河口に近い汽水域にあるため、水位が大きく変動し、時間帯によっては海水の遡上によって生じる塩水くさびの塩水層と、河川水の淡水層との境界面である「淡塩境界面」を肉眼で確認することもできます。河川工学の専門家も「理論上は理解していたが実際に見るのは初めてだ」と話すほどの貴重な体験です。

観察窓を印象づける河川の水の色は、その季節や天候を反映しています。夏は少し青みがかった色、雨の日は茶色く濁った色。当然のことながら、普段の水の汚れもそのままに映し出されます。一昔前に比べると、水質はかなり良くなっているようですが、時にはゴミが流されてくることもあり、私たちが普段の生活の中で、川に影響を与えていることを改めて考えさせられます。水



上段 左／クロダイ、右／モズガニ
下段 左／スズキ、右／ゴンズイ

中から見るゴミの一つ一つは、ふだん目にしているより印象的で、視点を変えて川を見るとまた違った印象を受けることに気づきます。生活に密着した実際の川の現状の体験は、人々に河川の問題をリアルに伝え、見学者に自身と川とのかかわりを見直すきっかけを与えるのではないのでしょうか。

河川観察窓

河川観察窓を見学できるホールには、緩やかな高低差の階段をつくることによって、水中に加え、対岸の景色とともに水面を望む視点場が配されています。さらに、地上には川全体が見渡せるデッキもあります。水中の環境造成にも配慮がなされ、観察窓付近に生物が集まりやすいように川底に捨て石を投げ込むなど工夫がこらされています。

都市部を流れる実際の河川のほとりで、汽水域の生物の営みや現象を複数の視点



上/多目的ホール
下/パソコン情報コーナー



飼育展示

から観察できる場所は全国でもここだけです。身近に流れる河川の様々な表情を目にする水環境館での体験は、観客に新たな発見や、河川に対する多くの興味を喚起します。北九州市は過去に公害を経験したこともあり、これからの水辺環境が如何にあるべきか、市民と一緒に考える多くの機会を提供しています。観察窓の前の多目的ホールは、市民向けの講演会やシンポジウムの場としても活用されています。

設立の経緯

北九州市を流れる二級河川・紫川の治水対策と水辺を活かした街づくりを同時に行う都市基盤河川改修事業「紫川マイタウン・マイリバー整備事業」。その一環として2000年に水環境館が開設されました。整備にあたり施設の半分は河川拡幅を行うために用地買収した民間施設の地下部分を再利用しています。紫川に隣接するこの施設の大きな特徴は、全体を箱型の護岸とし

て整備し、その内空部分を学習施設として位置づけているところです。そして、護岸の一部に幅7.2m×高さ2.3mの亚克力製を取り付け河川観察窓として活用しています。これは、たくさんの市民からよせられた提案の中から、北九州市立篠崎中学校の上村千秋さん（当時3年生）のアイデアがもとになって実現されたものです。この施設では「学ぶ・憩う・集う」をキーワードに、人間の生活に深く関わり多くの恵みと発展をもたらした河川と人との歴史を、展示によって自由に学び体験してもらうことがねらいとされています。

北九州高校「魚部」との連携

展示スペースを奥へ進むと、観察窓に現れる生物をはじめ紫川に生息する魚類を紹介する「北九州市の河川にすむ魚たち」の飼育展示コーナーがあります。ここに展示されている魚類の採捕、飼育管理は、学校ビオトープづくりや希少種の繁殖等で



北九州高校・魚部の部室

注目を集める福岡県立北九州高等学校の課外クラブ「魚部（ぎょぶ）」の協力で行われています。魚部は水環境館が開館した平成12年度から、市内外の河川に生息する絶滅危惧種の調査報告及び採集した淡水魚の飼育・展示等をボランティア活動の一環として積極的に行ってきました。部員が作成する解説パネルは好評で、観客が素通りしてしまわないよう工夫され、丁寧な描写による魚の形態の特徴をおさえたイラストに加え、その生態の特徴、採捕した場所の環境の情報等が自筆で記されています。特別展も魚部の担当で年に2回のペースで開催。最近では「ドジョウ展」を開催しており、その専門的な内容からは魚部が魚類学の本格的な研究領域へと踏み込んでいることが伺われます。このような地域の学校と展示館との協働体制により展開される取り組みは、学社連携の理想的な事例としても注目されています。

施設の案内

水環境館には、河川観察窓や飼育展示コーナーの他にも、水質チェックコーナーや北九州市の水環境の変遷や流域に関するデータを検索できるコーナー等も設置されています。また近年、水環境館は「到津の森公園」「ほたる館」と連携した体制で、産官連携学習プログラムを展開しています。工作、生物採取を通じて、「生き物との出会いや触れ合いによる体験活動」を推進していくことがねらいです。

小倉駅からのアクセスも良く、来館者数は現在までに100万人を突破（平成19年1月28日）。観察窓に映し出される様々な川の表情を、季節や天候、時間を変えて何度も観察することで、捉えにくい川の水中の現状やその変化をぜひ間近に体験してください。

吉富友恭（東京学芸大学）



水環境館正面



INFORMATION



● 紫江 'S' 水環境館

■ 所在地 / 〒 802-0007 北九州市小倉北区
船場町 1-2

■ TEL / 093-551-3011

■ 開館時間 / 10:00 ~ 20:00

■ 休館日 / 年末年始

■ 入館料 / 無料

■ アクセス

< JR 利用の場合 >

JR 「小倉駅」下車 徒歩 10 分

< 自動車の場合 >

駐車場が紫川をはさんで向い側に勝山公園
地下駐車場があります。(300 円 / 60 分)

■ 施設に関する情報 /

< 紫江 'S' 水環境館 >

<http://www.qbiz.ne.jp/cecera/mizukkan/>

< 福岡県立北九州高等学校魚部 >

<http://www.gyobu.jp/>

